

中部横断道



これからも「生物多様性に配慮した取り組み」を行っていきます



中日本高速道路株式会社

名古屋市中区錦 2-18-19
三井住友銀行名古屋ビル 〒460-0003
TEL: 052-222-1620
<http://www.c-nexco.co.jp>



中部横断自動車道は、二〇〇二年

三月の白根インターチェンジ（IC）～

双葉ジャンクション（JCT）開通を皮切りに順次開通し、二〇一九年

三月の新清水JCT～富沢ICの開通により、山梨県内が初めて新

東名・東名と高速ネットワークで繋がりました。

この区間は自然豊かな地域を通過するため、建設にあたり生物多様性に配慮した様々な取組みを行つてきました。その取組みの一部を紹介します。

1 猛禽類に配慮した建設計画

建設工事前の調査にて、工事現場近くで絶滅危惧種である猛禽類（オオタカ、クマタカ）の生息が確認されました。



クマタカ

3 「地域性苗木」の活用

地球温暖化の抑制や生物多様性保全のため、高速道路のり面を樹林化しています。建設現場では、周辺に自生する植物の種子をあらかじめ採取して、その種子から育てた「地域性苗木」を植えています。

地域性苗木を用いることで、種と遺伝子レベルの生物多様性を保全します。

中部横断自動車道の六郷IC～増穂IC間、新清水JCT～富沢IC間全体で約



二万一千本の
地域性苗木を
植樹しました。



5 LED照明の採用

基づいて設置位置を決定したものであり、科学的手法に基づいた人工巣設置にさえたのは大きな成果です。委員の先生からも「先例がなく極めて貴重である」との意見をいたいでいます。供用後二年間はモニタリング調査を継続予定です。



人工代替巣で確認された卵



トンネルのLED照明

2 希少植物の移植

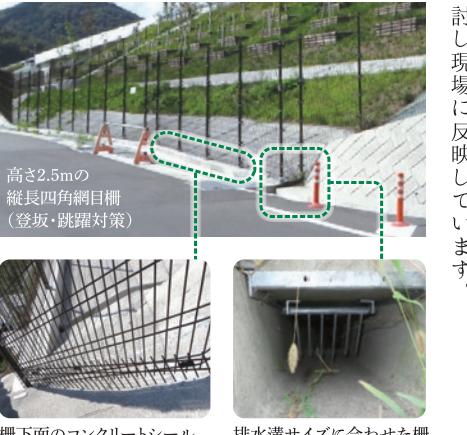
建設工事前の調査にて、工事現場内に絶滅危惧種であるサイハイラン、オニカラバなどの希少植物が確認されました。これらの希少植物は、工事着手前に工事の影響のない近隣の生育環境が類似した箇所に移植作業を行いました。



4 動物侵入防止柵の設置

自然豊かな地域を通過する中部横断自動車道の沿線には、シカやイノシシなどの大型動物が生息しています。それらの動物が高速道路上に侵入し、通行車両と接触し事故に繋がることを防ぐため、六郷IC～増穂IC、新清水JCT～富沢IC間では大型動物の侵入を防止する柵を設置しています。

設置にあたっては、動物の行動特性を考慮し、柵の網目の仕様や設置位置等を検討し現場に反映しています。



柵下面のコンクリートシール
排水溝サイズに合わせた柵